

ふ だんの く らしを し あわせに

社協だより 土佐



ムックン

(土佐市社協公式マスコット)



撮影者：廣井 貞敏 氏

1・・・【支え合い事業】地域活動紹介

2・・・あったか通信

3・・・【特集】福祉活動推進校 活動報告

発表校：高石小学校、戸波中学校

5・・・土佐市議会との意見交換会 / 第43回土佐市社会福祉大会

6・・・令和2年度日本赤十字社活動資金 / 赤い羽共同募金実績報告

2021

第 74 号

spring

生活支援「土佐市の良いところ見つけたよ！」 コーディネーター

平成 27 年 4 月の介護保険法の改正により、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備やサービスの提供体制の構築を目的に地域資源の把握・ネットワーク化やボランティア等の生活支援の担い手の養成、新たな地域資源の発掘・サービス開発等をおこなっています。このページでは、皆さまに知っていただきたいと思った地域資源を紹介し、地域活動の促進につなげていきたいと考えています。

ほっこり所谷 (北原地区)

令和元年 9 月に発足した「ほっこり所谷」は、地域住民の交流を通して気持ちを元気にする、ほっこりできる居場所を目指して活動されています。

徳島県の祖谷の『かかし』に感動した地域住民さんの「かかしを作りたい!」という気持ちや、地域で集まれる居場所が欲しいとの声から始まり、かかし作りだけでなく、災害時の非常食づくりやウォーキングなどの活動がおこなわれています。みんなが気軽に集まることで、より地域の人との交流が深まり、日常の生きがいづくり、災害時のつながりづくりなどに役立てたいと考えられています。

製作されたかかしはとても本格的で、一人一人に名前や性格などのプロフィールがあり、とても愛着が湧いてきます。所谷公民館の近くに行かれた際は、是非ご覧ください。



シニアダンスクラブとさし

土佐市の民生児童委員さんを中心に令和元年 6 月より発足しました。その後、「私もやってみたい!」と地域住民の方からも声が上がリ、今では約 20 名のメンバーで活動されています。『心も体も若々しく、楽しくダンスを!』をモットーに、地域で活動されているダンスインストラクターの協力のもと、週に 1 回練習に励んでいます。

自分たちの健康や若さの維持を目的とするとともに、世代間交流として各種イベントや保育園、小学校の行事などさまざまな場所で活躍されています。ダンスを通じて、子ども達との交流をはかりながら、地域の活性化を目指して踊られています。

みなさんも一緒にヒップホップを踊りませんか?

地域のイベントや集いの場で披露できますよ!
保育園・学校との交流、施設への慰問訪問 等

※お問い合わせは、土佐市社会福祉協議会まで (852 - 2145)



ひまわり手話サークル (市民学級)

「手話を学びたい」という地域住民の声から発足し、障害の有無にかかわらずサークル活動を実施されています。週に一度のサークル活動では、指文字 (手の形を文字言語に対応させた視覚言語) を使ったりとりや手話の学習などをおこなっています。敬老会やお花見、クリスマスなどの季節のイベントには、たくさんの会員の方が参加され、障害の壁を超えてみんなで楽しく活動しています。また、高知県内の手話サークル 16 か所と高知県聴覚障害者協会と連携して、手話を題材にした映画会の開催や県外在住の聴覚障害者との交流の場を設けるなど、幅広いサークル活動がおこなわれています。

■活動日

日時 毎週火曜日 19 時~21 時

場所 高岡市民館会費 1,200 円 / 年

(イベント時は別途参加費をいただいております。)

※サークルの見学や入会をされたい方は、土佐市生涯学習課まで (852 - 2111)



地域の方より、聴覚障害者の方の避難誘導のために、手話を学びたいという声から、宇佐・新居協議体で手話講座を開催していただきました。

あったかふれあいセンター高岡「あったか通信！」

子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる地域福祉の拠点として、支え合いの仕組みづくりや提供をおこなっています。(介護保険サービスではありません)

開所日時 月～金(土日・祝日・年末年始はお休みです。)
9:00～16:00

場所 土佐市高岡町甲1771(旧土佐市老人憩いの家)

電話番号 ☎ 088-881-5472 ☎ 090-7783-7814

利用料無料!

(飲食代や創作活動にかかる材料費等は自己負担となります)

つどい

子どもから障害のある方、高齢者まで気軽に集える居場所。

訪問

独居高齢者や障害のある方への見守り訪問をおこないます。

生活支援

日常生活での困りごとなどの援助をおこないます。

サテライト

船越サテライト『船越おしゃべり家』	4月再開で検討中。	船越公園 やすらぎの家
蓮池サテライト	毎月第2・4月曜日(祝日除く) 10:00～13:00	蓮池コミュニティーセンター
塚地サテライト『塚地みんなこいこい会』	毎月第4木曜日(祝日除く) 9:30～13:00	塚地集会所

お知らせ

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、利用制限を設けておりましたが、令和3年2月1日(月)より通常通り開所しております。「蓮池サテライト」と「塚地サテライト」も再開いたします。

なお、利用の際は「検温・マスク着用・手洗い・消毒」のご協力をよろしくお願いたします。また、体調の優れない方、体温が37.5度以上の方は利用をお控えください。

節分イベント

『鬼は外! 福は内!』



コロナでお出かけは自粛...
「あったか神社」で初詣!
今年も楽しい一年になりますように...



認知症カフェ「あったかつながりカフェ」オープン!

認知症カフェとは、認知症の方、そのご家族しか参加できないものではありません。認知症について理解を深め、たとえ認知症になっても、お住まいの地域でいつまでも暮らしていくことが出来るよう「情報提供」「情報収集」「交流」「集い」の場を目指しています。お気軽にお越しください。

開催日: 4月1日(木) 10時～12時 ... 偶数月の第1木曜日に定期開催

場所: つな一で 1階 多目的室 1-1



土佐市には、あったかふれあいセンター高岡の他に2箇所のあったかふれあいセンターが開所しています。運営団体は異なりますが、類似の活動やそれぞれの個性ある活動をおこなっていますので、是非一度ご参加してみてください。

宇佐 あったかふれあいセンターさくら貝 (088-856-0322)

戸波 あったかふれあいセンターとさ (088-855-1385)

福祉活動推進校 令和2年度活動紹介

土佐市内の小中学校、高等学校の児童・生徒を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア精神、福祉の心を養うとともに、子どもたちを通じて家庭や地域社会への啓発をおこない、児童・生徒等を中心に広く住民の福祉活動への参加を促進させることを目的としている事業です。

高石小学校

『だれもがくらしやすい高石を目指して』

片岡涼, 酒井敬士, 玉木南帆, 千頭胡空, 土居勇次, 濱崎弓維, 山本莉羽 (当時4年生)

私たちは、だれもが暮らしやすい学校生活や高石の地域を目指し、これまでに障がい理解や自分らしさについて学習してきました。

シッティングバレーボール

体育の授業で行っているバレーボールとは違い、座ったまま上半身のみを動かしてバレーボールをするのは初めてでした。初めはお尻を床につけたまま移動することに難しさを感じていましたが、徐々に慣れていくと長くラリーを続けるためにはコツがいるのかを考えるようになりました。2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定の年でした。そのため、パラリンピック競技であるシッティングバレーを体験し、障がいがあるから「できない」のではなく、あっても「できる」というスポーツの工夫を感じました。



アイマスク体験

視覚障がい者の方は、何で困ったり苦労したりしているのか、また自分がその方々に出会ったとき何ができるかを、学ぶために、アイマスク体験をしました。アイマスクをしてみると、視界が真っ暗なので、どこに進めばいいか分からなかったです。友達に「右、右。」と言われて右に行くと、「ちがう、じゃあ左!」と言われ、言葉じゃ分からなかったので困りました。もし、視覚障がいの方に会ったら、肩をかしてあげたり、点字ブロックの上に物があつたらのけたりしようと思いました。



車いす体験

初めて車いすに乗ってみると、不便なことがたくさんあることに気付きました。特に、坂を上るときがとても大変でした。力いっぱいこいでも少しずつしか進まず、力を緩めると後ろに下がってしまい、怖かったです。そして、小さな段差でも自分一人の力では超えることができず、結局友達に助けをもらい、段差を超えることができました。ただ前に進むだけでも大変なのに、道の真ん中に自転車や物が置いてあつたら、どれほど苦労するだろうかと思いました。また、車いすを押す側にもコツが必要だということも感じました。段差を越えようとがんばって車いすを押してみましたが、なかなか進みませんでした。先生に教えてもらい、車いすの後ろにあるステッピングバーを踏んで押してみると、前側が上がり、段差を越えることができました。しかし、力加減が難しく、乗っている何人かの人は「後ろに落ちそうで怖かった。」と言っていました。車いす体験を通して、周りにはまだ不便な場所があることに気付きました。また、車いすに乗っている人がどんな場面で困るか、そのときにどのような手助けをしたらいいのかを学ぶことができました。



学習を通して

今回の学習で感じたことは、不便な場所はまだまだ周りにたくさんあるということです。しかし、その不便さを無くそうとしている人も、みんながくらしやすくなるためにされたくふうも、周りにはたくさんあることにも気付くことができました。互いに思いやりの気持ちを持ち、相手や状況を理解することで困っている人に手を差し伸べることができます。それは、障がいがある人、高齢者の人、小さな子どもだけでなく、身近にいる友達にもやさしくすることにもつながると思います。そうすることで、だれもがくらしやすい、高石の地域になってほしいです。

市内推進校加盟校

小学校 (9 校) : 宇佐小学校、新居小学校、高石小学校、高岡第一小学校、高岡第二小学校、蓮池小学校、波介小学校、北原小学校、戸波小学校

中学校 (3 校) : 土佐南中学校、高岡中学校、戸波中学校

高 校 (2 校) : 海洋高校、高岡高校

戸波中学校

『戸波中学校における人権学習とボランティア活動について』

『誰もが安心して暮らせる世の中に』 矢野亜実 (当時中学 3 年生)

私は、総合的な学習の時間で人権課題について学習し、高齢者の人権問題について研究しました。私が高齢者の虐待について調べようと思った理由は、なぜ高齢者の人権を侵害するのか不思議に思ったからと、高齢者を介護している人はどんな思いをしているのか気になったからです。

厚生労働省が示している資料によると、2017 年に全国で高齢者虐待と認められた件数は、1 万 6384 件で、高齢者の虐待や介護・世話の放棄などが年々増えているのが現状です。介護を 1 人だけでしている家庭や仕事をしながら介護せざるを得ないことが、社会的な課題として考えられます。また、東日本大震災の際は、避難生活のなかで自身の抱える課題を周りの人に伝えて、助けを求めることができなかつたため、不安やストレスなどが避難生活の疲労につながり、たくさんの方が命を落とされました。

では、どうすれば命を救うことができたのでしょうか。まずは、普段から地域の方とも支え合う関係を築くことが大切だと思います。家族や地域の方と関係を築くことで、互いに気を掛け合い、支え合っていくことができます。また、高齢者自身の意思も尊重するために、手助けするだけでなく、できることは見守るということも重要になってくると思います。土佐市役所の方からの聞き取りでは、身体的に弱ってしまったときに支援をし、できなくなったことをもう一度できるようにすることが、高齢者の人権を保つうえで大切だと聞きました。

戸波中では、敬老の日に『はがき』を送り、純信の里への訪問などもおこなっています。これは、高齢者との大切な関わりでもあり、戸波中の大切な行事でもあります。これからも続けていってほしいです。1 人ひとりが人権について考え、正しく理解し、行動することで、少しずつ人権侵害がなくなってくると思います。たくさんの人との関わりをもち、互いに協力していきましょう。



『アイシティ eco プロジェクト』 森光透子 (当時中学 3 年生)

戸波中学校では、地域の清掃などのボランティア活動をおこなっています。今回はその中の一つを紹介します。今社会では、プラスチックのゴミが大きな問題になっています。それらの問題を解決しようと今様々な活動がおこなわれており、その中で私たちが注目したのが『アイシティ eco プロジェクト』です。これは、『アイシティ』というコンタクトレンズの会社が、コンタクトレンズ使用後の空ケースを回収・リサイクルし、全額を日本アイバンク協会へ寄付するリサイクル活動です。使い捨てコンタクトレンズの空ケースはポリプロピレンで作られており、リサイクルに非常に適していますが、現状はほぼゴミとして捨てられています。

この活動に、様々な企業や学校が参加しており、これまでの活動で東京ドーム 62 個分の CO₂ の削減に貢献し、寄付金額は約 880 万円にもなっています。これらの寄付金が寄付されている日本アイバンク協会では、角膜の病気による視覚障害の方の視力回復のために、角膜移植を待つ方とドナーの架け橋となっています。またアイシティでは、障害者の方が店舗や眼科で回収された空ケースのアルミシールをはがすなど、リサイクルの支援業務をおこなっています。このような趣旨に賛同し、2019 年より戸波中学校もこの活動に参加し、アイシティのホームページに協力校として掲載され、感謝状をいただきました。私たちの未来をより良くするために、これからもこの活動をおこなっていきたいです。

もし、皆さんの中にコンタクトレンズを使用している方がいたら、是非協力して欲しいです。コンタクトレンズケースのアルミシールを完全にはがし、戸波中学校に持ってきていただいてもいいし、イオンモール高知 2 階にあるアイシティ高知店に直接持参していただいてもかまいません。ご協力よろしくお祈いします。



土佐市議会議員との意見交換会を実施しました！

令和3年1月25日(月)に土佐市社会福祉協議会の理事と土佐市議会議員13名とで意見交換会をおこない、土佐市社協の現状についてや新型コロナウイルス感染症の影響による減収世帯への貸付事業の状況、民生児童委員についてなどを話し合いました。

貸付事業に関しては、貸付後の対応に関して質問が出ましたので、令和2年度より市から受託している生活困窮者自立支援事業及び家計改善・就労準備支援事業の担当職員との連携による聞き取り調査や相談対応、土佐市福祉事務所との連携による対応について報告させていただきました。同時に、生活困窮者自立支援事業関連の今後のビジョンについてお伝えさせていただきました。

また、民生委員活動への関心が高く、特に欠員地区が存在していることに対しての危機感を市議会としても持っていており、解決に向けた意見交換をおこなうことができました。わずかな時間のなかでの意見交換会でしたが、地域課題が多様化・複雑化している現代社会における地域づくりや安心安全の暮らしへの一歩、諸課題の解決に向けた貴重な会となりました。



会長コメント

今回で3回目となる、土佐市社協と土佐市議会との意見交換会をおこない、多くの質問意見をいただき有意義な意見交換ができたと思います。

今後社協として、市議会議員の皆様の協力を得ながら、市民の安心安全なまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。



第43回土佐市社会福祉大会を開催しました！

令和3年2月21日(日)に土佐市社会福祉協議会、土佐市共同募金委員会の主催により、土佐市複合文化施設つな一で1階ブルーホールにて土佐市社会福祉大会を開催しました。当日は、土佐市の社会福祉の発展に功績のあった方に対して、表彰・感謝状の贈呈をさせていただきました。

また本年は、毎年開催していましたが福祉に関する題材をテーマとした講演会は中止させていただきましたが、福祉活動推進校の発表は例年通り実施させていただきました。本年は、『高石小学校』と『戸波中学校』の2校に普段取り組まれている、福祉活動について発表をしていただきました。発表の中身については、本誌3、4ページに掲載していますのでご確認ください。

会長表彰(民生委員)

井上 洋 様 川澤 直通 様

会長感謝状(民生委員)

櫻木 計夫 様

会長感謝状(地域福祉活動)

土佐市赤十字奉仕団新居分団 様

小川 優子 様 小松 弘幸 様 立野 淑子 様

萩野 鈴子 様 廣瀬 文代 様 横川 明美 様

会長感謝状(社会福祉活動協力援助者)

石元 博子 様

会長感謝状(高額寄付者)

株式会社サンプラザ 様 松本 陽正 様

他にも、土佐市複合文化施設つな一で1周年記念とコラボする形でイベントを開催し、市内を中心に活動されている皆様に演奏やダンスの披露をしていただき、大会を盛り上げていただきました。

また、当日はムックン食堂も開催し、多くの方が参加してくださいました。



皆様のご理解ご協力、心より感謝申し上げます

＋日本赤十字社 ～ 人間を救うのは、人間だ。～

実績額：2,829,916円

日本赤十字社高知県支部は、「災害からいのちを守る赤十字」として、災害発生時の医療救護活動や救援物資の配布、平時には南海トラフ地震に備えた訓練や命を救う救急法等の普及、赤十字ボランティアの育成などの活動をおこなっているほか、令和2年度は新型コロナウイルス感染症がもたらす不安・偏見・差別をなくすための啓発活動などをおこないました。

これらの人道的活動は、国や県からの公的資金によらず皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。

皆様からいただいた活動資金は、上記で紹介した活動の他にも、一部が土佐市に配分されており、各地区自治会町協議会活動への配分や赤十字ボランティアの活動、炊き出し訓練などに活用させていただいております。

本年も赤十字の活動にご理解いただくとともに、赤十字活動資金へのご協力をお願いいたします。

赤十字ボランティアの活動風景



▶ 災害時に役に立つスキル獲得や炊き出し訓練などの研修



▶ 歌や踊りの慰問



▶ 地域のイベントなどに出店し赤十字活動をPR



令和3年度は、土佐市と日本赤十字社高知県支部と結んだ協定に沿って、赤十字救急法の普及を目的とした研修などを計画しております！

赤い羽根共同募金 ～ じぶんの町を良くするしくみ ～

実績額：5,197,514円

総件数：494件

自治会	：	3,319,830円	(139件)
企業団体	：	1,440,949円	(260件)
個人	：	360,160円	(80件)
学校募金	：	26,850円	(3件)
街頭募金	：	24,111円	(1件)
その他	：	25,614円	(11件)

令和3年度には、この内約75%にあたる

3,887,764円 が助成金として

土佐市に配分され、地域福祉に活用される予定です。

例えば...

- ・土佐市社会福祉協議会の提供するさまざまなサービスやイベントの開催、広報活動
- ・福祉活動推進校への助成 (P3-4を参照)
- ・80歳以上の独居高齢者への月2回の配食サービス
- ・各地区で活動する地区社会福祉協議会を通じた、地域行事の開催や子ども会などの地縁団体への助成
- ・地域で活躍する団体への助成 など

街頭募金



▶ 高岡中学校生徒さんによる街頭募金 (会場：サンプラザ ポプラ店) 高岡中学校は学校募金も実施してくださいました。

学校募金



▶ 戸波中学校



▶ 波介小学校

相談 4月以降の相談対応

■ 総合相談

日常生活に関するさまざまな不安や問題について相談されたい方はこちら！
事前にご連絡いただければ、待ち時間なく対応できます！

■ ふれあい相談

人権や相続などに関する相談をされたい方はこちら！
事前予約が必要ですので、ご注意ください。
毎週 月・水・金曜日
10:00 - 12:00 / 13:00 - 15:00

■ 無料法律相談（弁護士相談）

5月19日（水） / 7月21日（水） / 9月15日（水）
※奇数月の第3水曜日に開催しています。
ふれあい相談での面談後の予約受付となります。

会員 社協会員の募集

土佐市社協では、だれもが安心して暮らしていけるように地域福祉の推進をおこなっております。

社協会員とは、**地域福祉の応援団**です。

社協は、地域に生じるさまざまな問題・課題を解決するために地域住民やボランティア、関係機関と協力しながら地域福祉活動を推進していく民間団体です。
皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

自治会会員	: 300円 × 世帯数
特別会員（個人）	: 1,000円～
法人会員（団体）	: 2,000円～

令和2年度も、地域の皆様のご理解ご協力をいただき
1,814,160円の会費をいただくことができました。
心よりお礼申し上げます。

支援 フードバンクへのご協力をお願いいたします

フードバンクとは、「食料銀行」を意味する社会福祉活動です。食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、食べ物に困っている人や施設に届ける活動のことを言います。

いただいた食品は、土佐市社協を通じて市内の困っている方へお渡ししたり、一部はフードバンク高知などの支援団体を通じて、県内の方の支援もおこなっております。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、フードバンクへの支援依頼が急増しており、提供できる食品が不足しています。

お米や缶詰、乾麺、インスタント食品など、未開封かつ常温で保存可能なものを中心に、野菜などの提供をお願いさせていただきます。

食べ物に困っている人や施設に笑顔を届けるためにも、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

寄付 ご支援ありがとうございます

■ ムックン食堂への指定寄付

匿名様 50,000円

■ 土佐市社会福祉協議会への指定寄付

ボランティアさん手作りのマスクの販売利益 1,200円

常日頃から、皆様には土佐市社協へご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

【お詫び】第73号表紙写真提供者の氏名の誤記について。

令和2年12月末に発行した、『第73号社協だより土佐』の表紙に写真提供してくださった方のお名前を誤って記載しておりました。
正しくは「福岡 昭男」様です。
誠に申し訳ありませんでした。



【編集・発行】 社会福祉法人 土佐市社会福祉協議会

本所（総務課 / 相談支援課 / 地域福祉課）

開所時間「月～金曜日 8:30 - 17:15」 休日「土日・祝日 / 年末年始」
〒781-1102 土佐市高岡町乙 3451-1 土佐市複合文化施設つな一で 3F
TEL.(088) 852 - 2145 FAX.(088) 852 - 3194

あったかふれあいセンター高岡

開所時間「月～金曜日 9:00 - 16:00」 休日「土日・祝日 / 年末年始」
〒781-1101 土佐市高岡町甲 1771（旧 土佐市老人憩いの家）
TEL / FAX.(088) 881 - 5472 携帯 .090 - 7783 - 7814



左上：ホームページ

左下：facebook

右下：twitter

